

## 令和8年度に高等教育院へ 新しく着任された先生よりご挨拶



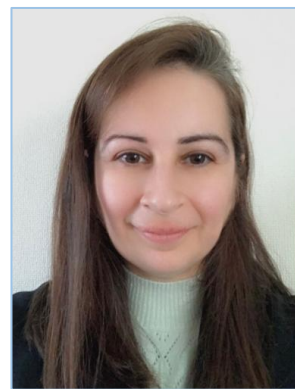
### ビビアン テルク 講師

皆様、はじめまして。このたび高等教育院に英語担当の講師として着任いたしました、ビビアン・テルクと申します。専門は応用言語学および外国語教育であり、研究では、学生のアイデンティティ、学習者の自律性、そして言語を通してどのように意味を作り出すかに関心を持っております。

私にとって英語学習は、正確さや成績のためだけのものではなく、自分の考えや経験、視点を自信を持って表現する力を育てるものだと考えています。また、学生が現実の社会と関わり、自らの経験を振り返りながら、言語を自分の生活と結びつけていく中で、より深い学びが生まれると感じています。

授業では、学生の皆さんが安心して参加できる環境の中で、小さな行動や対話を通して自分の考えを広げ、少しずつ英語で自分の声を育てていけるような場をつくりたいと考えております。また、教職員の皆様と協力しながら、学生一人ひとりの学びと成長を支えていければと思っております。

高等教育院の一員として、学生の皆さん、そして教職員の皆様とともに学び合えることを大変嬉しく思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



### 一般教養科目「NCUラーニング・コンパス」プロジェクトアドベンチャー体験

全学部で必修となっている「NCUラーニング・コンパス」の第2回では、滝子キャンパス体育館にて「プロジェクトアドベンチャー（PA）」の手法を取り入れた授業が行われました。今回の授業のねらいは、単なるレクリエーションではなく、身体性を伴うアクティビティを通じて初対面の学生同士の距離を縮め、「心理的安全性（Psychological Safety）」の高い学習集団を構築することにあります。大学での学びにおいて、失敗を恐れずに発言し、他者と建設的な議論を行うためには、互いの個性を認め合える安心感という「土台」が不可欠です。

授業の冒頭では、本科目担当教員である高等教育院の松尾美香准教授より、「相手の話をよく聞き、動きをよく見る」「否定・批判をしない」「無理をしない」という3つのルールが提示され、学生たちはこれらのルールを意識しながら活動に没頭しました。また、各学部から参加した教員や上級生がサポート役（ファシリテーター）として加わったことで、クラス全体に互いを尊重し合う温かな空気が徐々に醸成されていく様子が印象的でした。

本授業では、今回のPA体験を皮切りに、オンデマンド学習によるアカデミックスキルの習得、さらに対面での「話し合い学習法（LTD：Learning Through Discussion）」の実践、といった3つのステップで展開されます。これらを通じて、論理的思考力や問題解決能力を磨くだけでなく、多様な背景を持つ他者と協同して課題に取り組む資質・能力を養うことを目指します。



# 新入生合同ガイダンス 実施報告

令和8年4月3日（金）、名古屋市立大学滝子キャンパスにて、新入生約1,000名を対象に新入生合同ガイダンスを開催しました。

昨年度までは学部ごとに3部に分けて実施をしていましたが、今年度は、2号館404教室での対面実施および他教室へのオンライン配信によるハイブリッド方式に変更し、全学部一斉に開催しました。

当日は、郡健二郎理事長からの歓迎メッセージにより温かい雰囲気の中でスタートし、最後にはアジア・アジアパラ競技大会の学生ボランティア募集の案内も行われ、充実した内容となりました。

本ガイダンスは、新入生が大学の環境や制度を理解し、大学生としての自覚を持つ貴重な機会となりました。ご協力いただいた教職員や運営スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。今後も引き続き新入生を支援し、充実した教育環境の提供に努めてまいります。

## 【内容】

- ・ Welcome to NCU! (郡健二郎 理事長)
- ・ 人権と多様性の尊重 (伊藤恭彦 副学長)
- ・ 大学における学び (松尾美香 准教授 [高等教育院])
- ・ 授業科目の履修・登録 (高石鉄雄 教授 [高等教育院])
- ・ 情報環境の利用 (宮原一弘 講師 [高等教育院])



【上段：郡理事長】  
【下段：左から伊藤副学長、松尾准教授、高石教授、宮原講師】

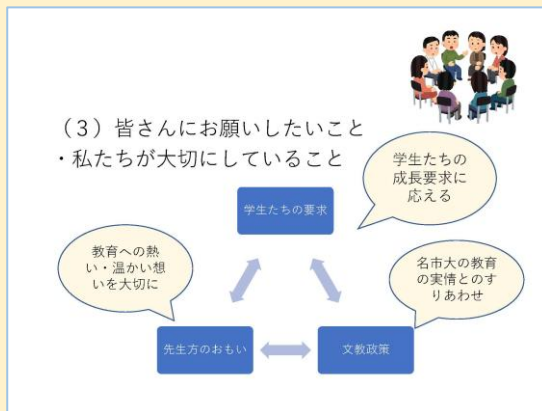
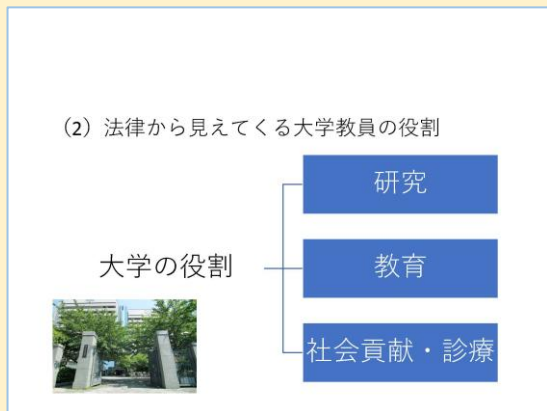
## 新任教員研修を開催しました



令和8年4月23日（木）、新任教員を対象とした令和8年度新任教員研修をZoomによるオンライン形式で開催しました。伊藤恭彦高等教育院長より、「名市大教員に求められるもの」をテーマとした講演が行われました。

教育基本法や学校教育法等の法令に触れつつ、大学教員の役割や各学部・研究科のポリシーへの理解の必要性等が説明され、「高度な研究が高度な教育を実現する」として、教育と研究の好循環を生み出し、新たな研究人材を育成していくことの重要性についても言及がありました。

参加者アンケートでは「要点がコンパクトにまとめられており集中して聞くことができた」「研究、教育ともに高い水準を目指したい」といった声が寄せられ、本研修は大学教員として求められる役割への理解を深め、教育・研究に対する意識を高める有意義な機会となりました。



★当日の動画を公開しています！ 学内イントラ>教務情報>新任教員研修

